

八幡浜市地域省エネルギービジョン



平成20年2月
八幡浜市

はじめに



八幡浜市長

高橋 英吾

現在、私達は、石油、ガス、石炭等の化石燃料を大量に消費し、快適で便利な暮らしを享受しています。

しかし、主に開発途上国の人口増や経済成長と共に世界のエネルギー消費量は増加を続けており、2030年には2004年の約1.5倍になると予想されています。風力発電や太陽光発電等の再生可能エネルギーの開発や原子力発電への取組みも進んでいるものの、今後も有限な資源である化石燃料に依存する割合は高いと予測されており、私達がこのままの生活を続けていくと、石油は約40年、天然ガスは約60年で枯渇すると予想されています。

また、これら化石燃料の大量使用等により放出された二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増大により、地球の温暖化が進み、気候が変動し、海面の上昇や食糧供給の不足、病気の流行や一部の動植物の絶滅等が危惧される等、人類の生存にも関わる問題となってきています。

こうした地球温暖化問題に対応するため、世界レベルでの取り組みが活発化しており、1997年には、地球温暖化防止京都会議（COP3）が開催されて京都議定書が採択され、この中で我が国については、温室効果ガスの総排出量を「2008年から2012年」の第一約束期間に、1990年レベルから6%削減するとの目標が定められました。

こうした問題に地域から答えるべく、八幡浜市では庁舎をはじめとする公共施設全体を対象に、温室効果ガス削減、省エネルギーのための「地球温暖化対策実行計画」を現在作成しているところです。しかしながら、地域のエネルギー問題、地球温暖化対策は行政だけではなく、市民や事業者が一体となって地域全体で取組まねばならない問題であり、そのため、今回「八幡浜市地域省エネルギービジョン」を策定しました。

策定委員長に愛媛大学学長特別補佐の矢部龍一先生にご就任いただき、各界の有識者の方々、市民代表の方々のご参加をいただき、熱心にご議論をいただきました。

ご指導いただいた新エネルギー・産業技術開発機構（NEDO）、四国経済産業局の皆様はじめ、ご協力いただいた方々に心から御礼申し上げます。

八幡浜市は、今後本ビジョンを踏まえて省エネルギーを推進し、「安心・希望に満ちた温かなまちづくり」、「自然と共生し快適さと安全を享受するまちづくり」に努めてまいります。

多くの方々のご協力に感謝申し上げますとともに、「八幡浜市地域省エネルギービジョン」実現のために今後一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

2008年2月

委員長挨拶



八幡浜市
地域省エネルギービジョン
策定委員会委員長

矢田部 龍一

八幡浜市は、旧八幡浜市と旧保内町が平成17年3月28日に合併して誕生した人口4万人強の町です。気候は温暖ですが、平野部が狭く、急峻な地形からなっています。地質的には三波川結晶片岩類とともに御荷鉾緑色岩類や蛇紋岩などの脆弱な岩石も広く分布しています。経済活動は活発で、古くは関西や九州との交易で栄え、四国で初めて電灯が灯るとともに、愛媛県下で初めての国立銀行の創設や紡績工場の設置という進取の気風に富んだ町です。ただ、近年は産業活動が少し停滞し、それとともに人口も減少しつつあります。しかし、玉虫型飛行機の制作者・二宮忠八や蘭学者・二宮敬作などの偉大な先人達の心意気は、今でも八幡浜市民の心に脈々と引き継がれています。

ところで、産業革命によりもたらされた化石エネルギーの莫大な消費は、地球温暖化を引き起こしました。今世紀の半ばには地球の平均気温が2.5°前後も上昇すると試算されています。地球温暖化により、海水面の上昇、気象災害の多発、感染症の蔓延など様々な問題が引き起こされることが指摘されています。また、大量消費により資源の枯渇が心配され始めています。20世紀、先進国は大量生産、大量消費を美徳とし、経済活動を展開してきました。しかし、その結果として引き起こされた様々な地球規模での環境問題に直面し、人類は大きく舵をきり始めています。特に、日本は1997年に開催された京都環境会議で温室効果ガスの削減目標などを盛り込んだ京都議定書策定の中心的役割を果たすとともに、今年7月に開催予定の北海道洞爺湖サミットでは、地球温暖化問題を主要な議題の一つとして取り上げることにしています。

このような時代的、社会的背景の中で、八幡浜市では平成19年8月に、「八幡浜市地域省エネルギービジョン策定委員会」を設置し、八幡浜市のエネルギー使用の現状と将来展望について精力的に検討して参りました。委員は13名で、地場産業関係者、住民代表者、エネルギー供給関係者、愛媛県関係者、教育界関係者、八幡浜市関係者で、オブザーバーとして経産省ならびにNEDOからも参加して頂きました。委員会を4回開催し、ビジョン策定の背景と目的、八幡浜市の地域特性、省エネルギー意識調査、エネルギー構造、省エネルギーの可能性と省エネルギー目標、省エネルギービジョンの課題・基本理念・基本方針、省エネルギーに向けた取り組み、重点推進プロジェクト、ビジョンの推進体制について検討を重ねてまいりました。

資源枯渇問題と地球温暖化問題、これらの課題に対する取り組みは待ったなしです。今回、八幡浜市の省エネルギー問題について様々な観点から検討し、重点推進プロジェクトを提案しています。具体的には、学校での環境教育・省エネルギー教育の実施、環境家計簿の活用、工場・ビルなどの省エネルギー診断の実施、日常生活での細やかな省エネルギーの実施、省エネルギー設備・製品の選択導入、地球温暖化対策実行計画の策定・実施、公共施設の省エネルギー診断の実施、公共施設への省エネルギー設備導入、バイオディーゼル燃料の導入、省エネ通勤の実施です。これらの課題の実施に際しては、八幡浜市民の積極的な協力が必要です。一人一人の小さな努力の積み重ねが、八幡浜市の省エネまちづくりとして大きく結実すると期待されます。

最後に、本報告書の取りまとめに協力頂きました関係各位に心より感謝申し上げますとともに、本書が今後の八幡浜市の省エネまちづくりに役立つことを祈念いたします。

平成20年2月

八幡浜市地域省エネルギービジョン目次

第1章 八幡浜市地域省エネルギービジョン策定の背景と目的	1
I. 省エネルギーの必要性	2
II. 地球温暖化問題	5
III. ビジョン策定の目的	8
第2章 八幡浜市の地域特性	9
I. 自然特性	10
II. 社会的特性	15
第3章 省エネルギー意識調査(アンケート)	35
I. 調査方法	35
II. アンケート調査結果の概要	36
第4章 八幡浜市のエネルギー消費構造	37
I. エネルギー消費量の推計について	38
II. 産業部門のエネルギー消費量	39
III. 民生家庭部門のエネルギー消費量	41
IV. 民生業務部門のエネルギー消費量	44
V. 運輸部門のエネルギー消費量	46
VI. 八幡浜市のエネルギー消費構造のまとめ	49
VII. 八幡浜市のエネルギー消費量の将来予測	53
第5章 八幡浜市の省エネルギーの可能性量と省エネルギー目標	55
I. 産業部門の省エネルギー可能性量	55
II. 民生家庭部門の省エネルギー可能性量	56
III. 民生業務部門の省エネルギー可能性量	58
IV. 運輸部門の省エネルギー可能性量	59
V. 八幡浜市の省エネルギー可能性量	61
VI. 八幡浜市の省エネルギー目標	62
第6章 省エネルギービジョンの課題、基本理念、基本方針	63
I. 省エネルギーに向けた課題と方向性	63
II. 省エネルギービジョンの基本理念	65
III. 省エネルギー推進の基本方針	66

第7章 省エネルギーに向けた取組み	67
I. 家庭における省エネルギーの推進	68
II. 事業所における省エネルギーの推進	69
III. 交通の省エネルギーの推進	70
IV. 環境教育、省エネルギー教育の推進	71
V. 八幡浜市役所、公共施設の省エネルギーの推進	72
第8章 重点推進プロジェクト	75
I. 環境教育、省エネルギー教育の更なる推進	76
II. 環境家計簿の活用	78
III. 工場、ビル等の省エネルギー診断の実施	80
IV. 日常生活での細やかな省エネルギーの実施	82
V. 省エネルギー設備、製品の選択、導入	86
VI. 地球温暖化対策実行計画の策定・実施	89
VII. 公共施設の省エネルギー診断の実施	89
VIII. 公共施設への省エネルギー設備導入	90
IX. バイオディーゼル燃料の導入	90
X. 省エネ通勤の実施	91
第9章 ビジョンの推進体制	92
I. ビジョン策定後の推進体制	92
II. ビジョンの進行管理	92
資料編	93
資料1. 市民アンケート調査結果	94
資料2. 先進地調査報告	151
資料3. 省エネルギーに関する支援制度	159
資料4. 用語解説	165
資料5. 八幡浜市地域省エネルギービジョン策定委員会（策定経緯、委員名簿）	171